

緑陰随想



医師会に参加しよう

渡島医師会 工藤 勝利

新米開業医のつぶやき

石狩医師会 福島 啓

ドクターが看護師として

北海道大学医師会 小林 博

私とお国言葉

寿都医師会 秀毛 寛己

柳陰

旭川市医師会 相澤 裕二

カニと流氷

紋別医師会 武田 彰久

冒険

札幌市医師会 金田 圭司

バッハのコンタータを
聞いてみませんか

帯広市医師会 高橋 徹

50の手習い

胆振西部医師会 青木 茂

ドライブ

岩内古宇郡医師会 寺山 亜希子

捨てられない！

旭川医科大学医師会 石子 智士

草刈三昧

三笠市医師会 宮下 均

我家に仔犬がやって来た

余市医師会 勝田 貴子

私の菜園日記

岩見沢市医師会 石塚 竜哉

“あたたかさ”の支援

空知医師会 湊 正意

震災歌集を読んで

小樽市医師会 鈴木 敏夫

開業のご挨拶

+子供の補助輪がとれるまで!?

空知南部医師会 齋藤 秀文

ノーベル賞とセレンディピティ

千歳医師会 佐藤 貢

東日本大震災に想うこと

北部檜山医師会 徳永 雄幸

こだまでしょうか？

北広島医師会 高坂 研一

(順不同・敬称略)

医師会に参加しよう

渡島医師会
くどう眼科クリニック

工藤勝利

今、この文章を読んでもらっているほとんどのDr.にはあまり関係ないことと思いますが、この北海道医報をあまり読んだことのない若いDr.に参考になれば幸いと思い書かせていただきます。

北海道には44の郡市医師会があります。それぞれの郡市医師会には異なった特徴があることと思いますが、これからの文章は私が経験したこと限定です。もし、他の医師会で違っていたら、お許しを。

【私と医師会との出会い】

私は他医師会の病院からの転勤で、渡島医師会へ入会いたしました。当時、勤務医であったため、医師会内に顔見知りのDr.はほとんどいない状況でした。初めて参加した懇親会は事前に座席の決まっていないう着席方式でしたので、一番やさしそうにみえるDr.をみつけ、横に座らせていただきました。極度の緊張と、共通の話題がないことから会話ははずまず、ひたすらグラスがテーブルと口を往復していたことと思います。ふびんに思ったのが、そのDr.が二次会に誘ってくださり、お供させていただきましたが、懇親会終了の安堵と解放感、飲みすぎから、トイレで吐いたことを覚えています。そのDr.は、現渡島医師会議長、函館ドクターズゴルフ会会長の本間Dr.です。本間Dr.、見ず知らずの私を誘っていただき、ありがとうございました。今でも感謝しております。

【医師会は、あなたの貴重な自由時間を少し奪う】

医師会活動に参加するためにはまず、総会とそれに続く懇親会に参加する必要があります。参加していなければ、釣りにいけたかもしれません。床屋にもいけました。この日ばかりは、ゴルフ練習場もいけなくなりました。そこをぐっところえ、ぜひ、参加してみましよう。毎週あることではないのですから…。

【医師会は、他科Dr.との交流の場を提供してくれる】

このことが、医師会に参加する最大のメリットかもしれません。

普段の講演会の参加者は、当然同じ科のDr.が主です。もちろん、これはこれで楽しいのですが、特別な努力もなく定期的に他科Dr.と交流できることは大変貴重です。ぜひ、日常疎くなっている話題に耳を傾けてみましょう。話してみると、自分とは異なる仕事ぶりに感銘を受けるかもしれません。

【医師会は、患者数を増やしてくれる】

時に、医師会関係者が、患者さんとして受診していただけることがあります。個人情報に抵触しますが、以前、渡島医師会長が霰粒腫で来院して下さったことがあります。できれば、保存的に治って欲しかったのですが、結局切開搔爬させていただきました。あの時は本当に気が重かった…心から治ってくださることを祈りました。

その他、遠方にもかかわらずDr.や奥様に来院していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

【医師会は、親身にあなたのことを考えてくれる】

あなたが経験豊富なDr.なら関係ないかもしれませんが、しかし、もし経験の十分でない年齢なら、医師会はありがたい存在です。

あなたがこれからしようとしていること、考えていることに対して、どうするのがベストなのか、いろいろアドバイスしてもらえます。しかも先生方は経験豊富ですから、絶対に耳を傾けるべきです。

あれだけの経験豊富な先輩方に、定期的にお会いする機会があることは大変貴重です。

【医師会はあなたの診療以外の仕事を増やす】

医師会には講演会や北海道医報への寄稿など、さまざまな仕事が舞い込みます。その割振りの仕方は、もちろん適任者へとなりますが、あまり大きな声では言えませんが、頼みやすいということも、大きなファクターです。日常、医師会にはお世話になっていますので、頼まれたことは、なかなか断れないのがつらいところです。

以上、私が医師会に感じていることを、思いつくままとりめなく書いてきましたが、普段、医師会の会合に足が遠のいているDr.、今度ぜひ参加してみてもどうでしょうか？いい発見があるかもしれませんよ。いえ、きっとあります。



新米開業医のつぶやき

石狩医師会
福島医院

福 島 啓

石狩市内に開業する父の診療所で一緒に仕事をしようになり、かれこれ4年半が経ちました。親子で診療にあたる時、小さな診療所に医師が2人いることから起こるちょっとした衝突があります。診療方針の違い、患者さんへの説明のニュアンスや処方薬の好みなどもいろいろありますが、最近父が意見することも少なくなり、私の思い通りに診療させてもらっております。

地方病院に勤務していたときと逆の立場にあたる現在の環境で、当初は戸惑うことも多く、札幌市内や近隣の先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あったことと思います。適切な紹介のタイミング、いつも悩みますが、症例を通して勉強させてもらうことも多く、日々感謝の毎日です。この場を借りてお礼申し上げます。

札幌近郊の石狩市をエリアとする石狩医師会はおよそ70名ほどの会員がいるものの、学術講演会などでいつも顔を拝見する諸先生方は限られた方々で、なかなか若手が出てくることはありません。コミュニケーションは大事だと感じるとともに、父の指導もあり、医師会には顔を出していたところ、重鎮の先生方の目に留まってしまったのか、石狩医師会の役員をせよと指令をいただきました。さすがに、こちらの医師会に加入して数年しか経っていないのにいいのだろうかというジレンマもありましたが、せっかくの機会だからと医師会見学の気分で仕事も少々させていただくことになりました。

少し話がそれますが、6月に従妹の結婚式に出たときのこと。新郎になれる方は弁護士さんであり、われわれの業界の結婚式と少し雰囲気が違うなと感心しつつ、上司にあたる方の祝辞で「彼は会務の仕事もがんばる良い青年…」というような話をされておりました。その話での「会務」というのは弁護士会のことなのだそうです。自分に置き換えると医師会のことなのかと思いつつ、案外どの業界も同じなのかもと思います。

当医師会の最大のテーマは予算配分からみても、休日および夜間の救急診療問題。マンパワーの問題に加えて過去からの経緯や報酬など、単純に解決できる問題ではありません。今年は医師会事務局の移転についても話し合われるようです。今年度、私に割り当てられた仕事は学術の担当。司会をすること

もあり、話すことがあまり得意ではないものでどうなりますか。

実は今回、「緑陰随想」に投稿を依頼されたものの、さて何を書いたらよいものかと悩んで、締め切りまでもう数日…。趣味の話でも何でも良いとのことでしたが、初めてなので、自己紹介も兼ねて堅い話になり失礼いたしました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

ドクターが看護師として

北海道大学医師会

公益財団法人札幌がんセミナー

小 林 博

かつて「ジャパ行きさん」と言われ、日本の夜の世界で働くフィリピンの若い女性が多かった。これが人身売買の温床になっているとの国際的な批判が高まって、いまは制約が厳しくなった。興行ビザの発給資格が厳格になったからである。

一方、欧米へ出稼ぎする看護師はかなり多い。こちらは評判が大変よい。

JICAフィリピンの村上記みさんの話によると、「フィリピンの看護師の80%以上が自国を離れてしまうので、フィリピンの病院の医療レベルの維持が大変」という。「実は病院に働くドクターまでが自国での安い給料を嫌い、より高い報酬を手にする海外諸国での看護師として出稼ぎに出かけるものが少なくない。従ってフィリピンの看護師の試験合格者の半数は、看護師ではなく医師資格をもつドクターである」という。

フィリピンは医療者に限らず「出稼ぎ大国」ともいわれ、米国、カナダをはじめ外国への出稼ぎが非常に多い。毎年100万人以上の人達が海外に働きに出かける。みんな英語ができるし、人間的に柔軟性があるので評判がよい。

出稼ぎしなければならぬことは貧困の証ではあるが、出稼ぎに行き働いて得られる外貨は日本円で毎年1兆5千億円になるというから、これはフィリピンの国内総生産（GDP）のおよそ1割になる。経済的に貧しくとも心は豊かな人達である。彼らはサービス業の天性を持ち合わせている。

私とお国言葉

寿都医師会
黒松内町国民健康保険病院

秀毛 寛己

ある固有名詞を聞いただけで、出身地が札幌近郊と分かるある言葉を発見した。それは「大通り」である。標準語であるはずの札幌の人たちの、地下鉄車内などでの漏れ聞こえる会話を聞くとはなしに耳にしている、いつもこの単語でハッとすると。東京の人は絶対にこうは発音しない。イントネーションが全く違うのだ。

オードリー・ハップバーンのオードリーの発音のイントネーションと、全く同じように聞こえる。そのままオードリーとドトリを伸ばせば、ネイティブの道産子発音となる。外人に道を教えるなら、この女優の名前の読みを教えればいとよくあちこちで話している。ただし、大通り公園と後に公園がつくと発音は標準化するから、日本語の発音は難しい。以前に大阪圏に住んだことのあるちゃきちゃきの江戸っ子にこの話をしたら、JRのホーム案内で大阪のアナウンスに、このことに似た妙な違和感があったという。本来公共の録音放送用語から土地が分かる訳がないのだが。彼によると「…電車が近付いて参ります。…」という電車の電の発音を、関西は食べ物の「おでん」のでんと発音していて、聞きたびに大阪を意識したらしい。

ちなみに言うと、関西ではある年代以上の人は「おでん」とはあまり言わない。「関東煮(かんとだき)」という表現が一般的である。

彼に、電話とさらに「お」を付けた「お電話」のでんの部分の発音が変わるのは、関東関西を問わないようだと言った。おが付くと「お電話」の電の発音は、関東でも関西の「電車」の電のイントネーションに変化する。

何か発表したり、初対面時などはできるだけ標準語に近く話そうと努力するが、熱中するとどこかで関西のイントネーションが出てしまっていると思う。またTVに影響されて、わざと使いたくない関西弁を使っている人の発音も妙に耳障りなものだ。

神戸・大阪・京都は関西の三都とよばれるが、全く言葉が違う。ローカルな話で恐縮だが、単なる関西弁では片付かない。大阪は商用語、京都は冷笑めかつ上から目線、神戸が一番ガラが悪いと？いわれている。

奈良・和歌山・姫路などもそれぞれローカル語調と語句がある。

近畿圏以外の人には全部関西弁で同じに聞こえるだろう。

ちょっと補足すると、神戸では例えば「書いている=be writing」という表現を口語で「書いとう」、大阪は「書いてる」となる。大阪の友人たちは皆この「…とう=be~ing」という口語に神戸を意識するという。

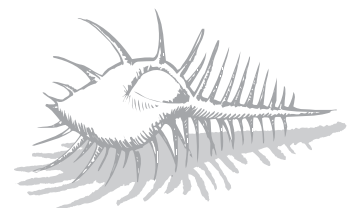
出身大学が二期校だったためか、西日本はじめ全国からの学生が来ていた。最初違和感を覚えた博多弁や広島弁とか名古屋の発音もしまいには慣れて、ごちゃまぜ状態でわーわーやっていた。

何年か経ち、おまえの言葉が最もケンカ売ってるみたいだったと、最も横柄に態度悪く聞こえた博多弁の級友たちに言われた。

同じ日本語なのに、いや同じ日本語だから、最初は自分と違うイントネーションや語句で人を一般論で区別し偏見を持つ。が、いったん性格を理解し使う言葉に人格を感じれば、もう何弁だろうが関係なかった。大事なのは性格と人格。言葉に気持ちがあれば。

東日本大震災。未曾有の激甚災害。多くのボランティアが、全国や世界中から東北を目指した。及ばずながら、気仙沼市立本吉病院に計12日間ほど微力を提供させてもらった。そこにはいろんなイントネーションが、いろんな日本語が飛び交っていた。余裕がなければ、自然と使いたない言葉で相手かまわず意思を伝えようとする。しかし、ここでは心地よく全国のお国訛りが違和感なく溶け合っていた。言葉の違いより、ボランティアたちの行動の誠実さと同じ瞳の輝きに圧倒された。けっして耳障りではなく、あたかも復興の序曲を少しでも早く奏でようとする有志のオーケストラの懸命なテスト演奏に聞こえた。

そして神戸の震災のときと対照的に、口数は少ないけど少しはにかんだような優しいイントネーションで訥々と心に響く本吉のナースや職員、患者さんの言葉…けっして大げさに自らの被災を語らない…ボランティアの心をさらに奮い立たせる言葉が染みいるように、東北弁で静かに、そして力強く伝わったに違いない。





旭川市医師会
メイプル病院

相澤裕二

柳陰と書いて「やなぎかげ」と読みます。初めてこの言葉を聞いたのは、上方落語の故二代目桂枝雀師匠の「青菜」の中であった。落語とは本来、噺家がオーディエンスを前に語る芸を言い、私がほとんど聴いている録音された音源を再生したモノは、落語の化石みたいなもので、厳密には私はライブの落語をよく知らない。しかし、化石を研究する生物学もあるのだから、少しご容赦いただきたい。詳細は覚えていないが、枝雀師匠は札幌や旭川にも来られ、何回かその高座を聞くことはできた。しかし私自身が、その日その日の枝雀の噺の出来不出来が分かるほどは落語を知っている訳ではなかった。

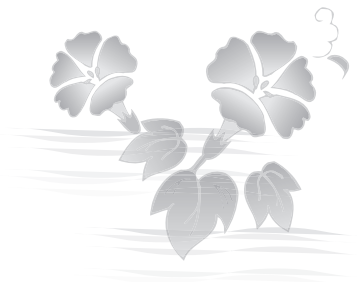
枝雀は、熟度の高い完成度を誇ったうえ、それを維持し続けた先代の八代目桂文楽とも異なり、常により高さを追求し続けざるを得ないこと尋常ならざる噺家であったように思える。あるいは文楽以上だったのか。明るいというか華やかというか、そんな芸風を多くの人に愛された文楽は、1971年8月31日の高座の途中絶句し「台詞を忘れてしまいました…申し訳ありません、もう一度…勉強し直して参ります…」と深々と頭を下げてそのまま高座を降り、二度と高座に戻ることなく、その年の12月肝硬変で亡くなった。一方の枝雀は1997年にうつ病を再発したと言われ、1999年帰らぬ人になる。完成度の高い芸を維持し、あるいはさらに上を目指すことがどれほど壮絶なことなのか。

「青菜」という話は、夏の暑い日の昼下がりに隠居が庭をやっていた植木屋に、高級品のよく冷えた柳陰と鯉の洗いを風通しの良い縁側でご馳走するところから始まる。話の前半で枝雀は大阪の暑い夏の日、これらのアイテムと品の良い隠居夫婦の会話で涼しげな風情を醸し出した後、話の後半で、西日が強く当たる長屋の押し入れから鰯の炊いたのを上手に作る植木屋のかみさんを文字通り汗だくで登場させ見事に対比させる、つまり冷えた柳陰と生ぬるいお酒、鯉の洗いと鰯の炊いたの、昼下がりの風通しの良い日陰の縁側と西日のあたる長屋の押し入れ、しゃれた会話と付け焼刃で失敗する会話とである。これらのセレブ系と庶民の対比を軸に、枝雀の抱腹絶倒の笑いの連鎖が夏の情景の中ではじていく。この拙文では説得力を欠くのをお許し願いたい、もし大阪の夏の日を感じてみたくなったら、二代目

桂枝雀の「青菜」を試聴するのも一興かもしれない。

江戸の夏なら四万六千日（旧暦の7月9日）の暑い日をお大川（現隅田川）から船で涼しく浅草観音様参りするはずだった先代文楽の「船徳」か、両国の川開きのヒーロー「たがや」か。肝心？かどうか分からないが、まだその柳陰を飲んだことがない。いやそれどころか、柳陰の説明すらまだしていなかった…。柳陰は江戸時代というより「明治・大正の頃、米焼酎と餅米と米麴とで本格的に仕込まれたりリキュールのような甘口のお酒」だったそうで、庶民が使いそうになかった深い井戸でよく冷やして飲むと良かったようです。関東ではみりんに焼酎を加え軽快な味にしたお酒を「直し」ともいい、柳陰を「本直し」と称したようです。牧村史陽編の大阪ことば辞典（講談社学術文庫）では、説明の最後に「戦時中の酒類統制ですべてが東京式に統一され、柳陰の名はついに消滅してしまった」と結び、どこか天覧試合の長嶋のホームランはファウルだった風の余韻を感じさせている。

さてさて、できれば暑い夏の昼下がり、風通しの良い日陰の縁側で、団扇であおがれながら鯉の洗いと冷えた柳陰を、可能なら隠居ではなく年増の浴衣の玄人の酌…（未完）





カニと流氷

紋別医師会
武田医院

武田 彰久

これまで紋別市は「カニ」と並んで「流氷の来る街」として全国にPRしていました。船底の巨大なドリルを回転させ豪快に流氷を砕きながら進む砕氷船ガリンコ号は、数少ない観光産業の担い手でした。しかし最近では年々流氷が減少しており、流氷のない青海原をただ悠々と進んでいることの方が多くなってしまいました。

流氷の恩恵は観光だけではなく、漁業にももたらされます。流氷が植物性プランクトンやミネラルを運んでくることによって、オホーツク海産物に大きな影響をもたらすのです。実際にオホーツクの漁師たちによれば、流氷が多く来た年はカニやホタテがおいしいと言います。本来、流氷によって海が閉ざされる季節は漁師たちの長い休息のときでもあったわけですが、近年流氷が少なくなり漁師たちの休息も少なくなった一方で、豊漁の噂はあまり聞こえてはきません。多くの漁業関係者は、流氷が来なくなるにつれて、魚、カニ、ホタテが獲れなくなることを懸念するようになりました。

紋別市近郊にはいまだ豊かな原生林が広く残されており、一方で植林も盛んに行われています。伐採を中心とした林業が盛んに行われている場所では、森林破壊も問題となっています。森林破壊がもたらす環境への影響は、専門家から説明を受けなければ一般の人には伝わりにくい部分もあります。「木を植えて川を守り、山を育て海を守る」と言ったある治水の専門家は、日本の水道のすばらしさは世界一であるとも言います。蛇口をひねっただけでおいしいきれいな水が出てくる国は、先進国の中でも珍しいそうです。

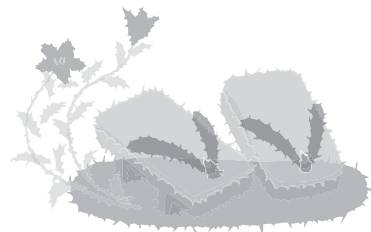
河川の水質が水道水の質を左右するのは、私のような素人でも理解できます、さらには、その河川の水質を左右するのが豊かな森林であることまでは、なんとなく理解できそうです。しかし、汚れを含んだ海水が蒸発し、雲となって雨を作り山に降り注ぎ、木々や土壌を通り抜ける間に清流となり川となって海へ注ぐ。そうして透明度の増した水は植物性プランクトンを育て、それらが流氷に閉じ込められて南下した先で放出される。このようにして、オホーツク海の豊かな食物連鎖が形成されてゆくことまでは、なかなか想像に至りません。

人の一生が一瞬に感じるような途方もない時間を

かけて、豊かな森が海の魚を増やしてゆく。これは専門家によっていくら丁寧に説明されたとしても、われわれの理解はその巨大な時間の流れにただ圧倒されるばかりです。今、私達がおいしいカニを食べられるのは、こうした崩し難い大きな循環のおかげなのでしょう。

厳寒の2月に行われる流氷祭りは、今や紋別市の風物詩でもあります。一方で、流氷は昭和中期までは、海を閉ざし漁業が中断されてしまう厄介な存在だったようです。そして昭和38年に「流氷との共存」ということで、第1回紋別流氷祭りが開催されるようになり今に至ります。しかし、明治以前の先住民であるアイヌの人々は、流氷をどう思っていたのでしょうか。アイヌの文化は「すべての自然、動物に対する信仰」であると言います。もしかしたらアイヌの漁師たちは、流氷と豊漁の関係にすでに気がついていただけたのかもしれませんが。そしてそれが先述の治水の専門家が指摘する崩れ難い大きな循環と同じことを示しているとしたら、われわれは今まで厄介者扱いをしていたけれども、流氷のおかげでおいしいカニが食べられるということに感謝しなければならないのでしょうか。

(今、自分の目の前にあるカニがおいしく食べられればそれでいい、と不覚にも思ってしまった人いませんか?)





札幌市医師会
南1条メンタルクリニック

金田 圭 司

子供のとき、冒険といえば友達と山の中に行ったり遠くの海に自転車でいったり、不安もあったけれどわくわくしながら、そしてふらふらになりながら今まで行ったことのない景色、場所にいることを楽しんでいました。小学校のときにはダーウィンの未知の世界探検、コロンブスのアメリカ大陸発見などの本を読んで興奮していたものです。だから小学校の卒業文集には将来船乗りになってアマゾンを探検すると書いてました。しかし実際は平凡な日々になるのですが…。

医者になってから何度か国際学会に行くことがあり、あるときメルボルンに行きました。ホテルも日本からファックスで予約しておいたはずなのですが…。

メルボルンに着いたのが夜中の12時、雨がしとしと降っていました。タクシーに乗って予約したホテルに行きました。フロントで予約していることを伝えましたが、フロントは予約が入っていないと言います。ホテルからきた予約確認のファックスを見せると、フロントの方があわてた様子で何人が集まって、そのうちホテルの正面のタクシーに乗せられました。しばらくしたら場末のぼろぼろのホテルに連れて行かれました。「それはないしょ！」と思いましたが表現できず(つまり英語ができないということですね)、その日はおとなしくそのぼろぼろホテルで熟睡。翌日から学会場もチェックに行きますが、次のホテルも探して町をちよろちよろ。すると見つかるんですね。住み心地のよいホテルを見つけたときは、ほっとすると同時に、すごくうれしい気分になったのを覚えています。

発表はポスターでしたが、それでも終わると解放感があって、さっそく観光ツアーに行きました。日本人は私だけで英語でガイドされるんですがよく分からない…。こういうツアーの中には、言葉が分からない訳ではないのですが、ガイドの話を聞かないぼやっとした人というか、そういう一群(といっても私以外は2、3名)がいるんですね。なぜかそういう人たちはグループになるといいますが、昼食のレストランでも一緒にテーブルになる。ソフトクリームを食べながらカンガルーを見ていても、すぐ横で同じようにソフトクリームを食べている…。仲良くしてくれるというか懐かれるというか、よく話しか

けてきて、こっちもよく分からないけれど身振り手振りで答えたり。

観光ツアーが終わった後、その人たちとビールを飲みに行きました。「俺たちのホテルに移ってこいよ」ということで翌日移りました。そこは二段ベッドが5個くらいある、集団で泊まる部屋でした。夕方移ったときにはその部屋には私一人しかいなくて、疲れていたのですぐに寝てしまいました。夜中に何度か新しいお客さんが来たようでしたが、そのまま寝てました。朝目が覚めると、向かいのベッドにはどう見ても金髪おさげの人が寝てるように見える。驚いてベッドから出ると5人ほどが泊まっています、なんと私以外はみな女の人でした。この宿はバックパッカーといって、あちこち旅する人たちが泊まる場所のようでした。宿に着いた順からベッドが割り当てられるので、老若男女を問わない部屋構成になるんですね。

冒険というと、誰もが行ったことのないところに行ったり、極限に挑戦したりというイメージがありますが、私にとってはちょっと変わったことを、少し緊張して楽しみながらトライしていくというのが冒険です。今年は診療後にジョギングシューズを履いて行けるとこまで行って、そこからビールでも飲んで帰ってくる。どこまで行けるのか、そしてそこにはどんな居酒屋があるのか。とても楽しみです。



バッハのカンタータを 聞いてみませんか

帯広市医師会
北海道社会事業協会帯広病院 高橋 徹

「通」と呼ばれたければ、「バッハは教会カンタータがいいね」と言うのと良いと本で読んで、不純な動機でバッハのカンタータを聞き始めました。

バッハのカンタータといえば、BWV140「目覚めよと呼ぶ声あり」とBWV147「心と口と行いと生命もて」の2曲が最も有名でしょう。聞いてみると「通」好みなどということはなく、声楽になじめば何ということもなく美しい音楽です。

では次に何を聞けばいいでしょうか？ いかんせん200曲にもおよぶ曲数で、全集はCDにして60枚を超えてしまう分量です。選ぶといってもカンタータ50選などという世界です。

そこで樋口隆一氏の「バッハの四季」(平凡社)の季節や教会暦に沿った曲の紹介を参考に、1月から12月まで月ごとに有名曲を一曲だけ選んで聞くという計画を立てました。

まず私の誕生月の2月ですが、これは2月2日「マリアの浄めの祝日」のために作られたBWV82「われは満ち足りり」があります。冒頭のオーボエで引き込まれてしまう傑作です。3月には、3月25日「マリアのお告げの祝日」のためのBWV1「暁の明星のいと麗しきかな」が挙げられます。BWV1ですが最初のカンタータではありません。

4月と考えると問題が生じます。教会カンタータの多くは復活祭から何週間後に演奏されるというものが多いのですが、復活祭は「春分の日後の最初の満月後の最初の日曜日」と決められるので年によって変わってしまいます。例えば2011年は4月24日ですが、2012年は4月8日、2013年は3月31日となります。何月の曲を選ぶと最初に計画しましたが、年によって演奏月が変わってしまいます。そこで割り切ってバッハの初演時の月をもって代表させることにします。

4月は復活節第1日のためのBWV4「キリストは死の絆につきたまえり」があります。バッハのカンタータの中でも最初期のものと言われています。

5月は聖霊降臨節第1日のためのBWV34「おお永遠の炎、愛のみなもと」が挙げられます(聖霊降臨祭は復活祭から50日目の日曜日)。6月は三位一体節後第3日曜日のためのBWV21「わが心には患い多かりき」があり、この曲はバッハのカンタータでも最大規模と言われています(三位一体の主日は聖霊

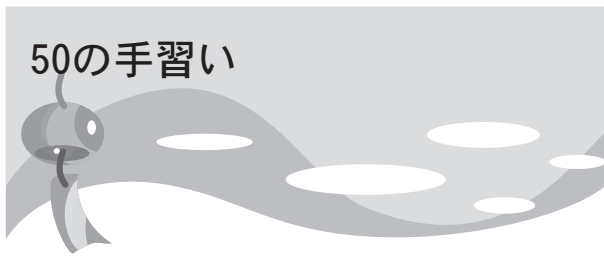
降臨祭の次の日曜日)。7月は7月2日「マリアのエリザベト訪問の祝日」のためのBWV147「心と口と行いと生命もて」が絶対です。このなかの「主よ、人の望みの喜びよ」の旋律を知らない人はまずいないでしょう。

ここまでは教会の礼拝用に作られた教会カンタータを挙げてきましたが、8月は、1742年8月30日荘園領主就任祝賀のための世俗カンタータBWV212「わしらの新しいご領主に」(農民カンタータ)を挙げなくてはならないでしょう。夏らしい軽妙な音楽です。9月は三位一体節後第14日曜日のためのBWV78「イエスよわが魂を」があります。10月は10月31日宗教改革記念日のためのBWV80「われらが神は堅き砦」が挙げられます。11月は三位一体節後第27日曜日のためのBWV140「目覚めよと呼ぶ声あり」を外せません。第3曲のヴァイオリン伴奏の二重唱は何度聞いても感涙ものです。意外にも教会暦に沿って聞いたらめったに聞けなくなるという曲です。

12月と1月ですが、BWV248「クリスマスオラトリオ」を挙げるべきでしょう。12月25日、26日、27日、年が明けて1月1日、新年最初の日曜、1月6日の顕現節に行われる6曲のカンタータからなるものです。中でも第IV部39曲のエコーは印象的です。

どうですか、11曲(16曲?)全部とは言いませんが、自分の誕生月の1曲だけでも聞いてみませんか。どの月に生まれた方にも素晴らしい音楽が待っています。





50の手習い

胆振西部医師会
北海道社会事業協会洞爺病院

青木 茂

最近久しぶりに会う友人知人に、「やせたね、どーしたの」と必ず聞かれ、そのたびに、「びよ、病気じゃないから」と一々説明するのが面倒と思いつつ、多少自慢げに、「マラソン始めたんですよ」と答える日々が続いている。若いときは一応運動部には所属していたが、単調で苦しい長距離は苦手で、いつも先輩にどやされていたが、40過ぎから一度フルマラソンを走ってみたくなり、マラソン入門書を買ってみたものの、なかなかトレーニングに踏み切れずいた。

50を過ぎて、いよいよ年齢的にラストチャンスだと悟り、練習して走れる自信がついてからなんて言っていたら一生できないと確信し、昨年、伊達ハーフマラソンにエントリーしてしまった。申し込んだ以上やらないわけにはいかず、入門書のメニューどおりに、地道に少しずつ練習したところ、何とか制限時間内に完走できた。集団で走るとペースも速くなり、スタイルのいい女性に遅れまいと前半飛ばし過ぎ、残り3kmは股関節が痛くなり満足に走れなくなったが、ゴールしたときの快感、達成感は〇〇より格段にいいかもと思ってしまった。

喜びを知ってしまった以上猿ではないが、走らずにはいられなくなり、半ば強迫観念でトレーニングしている自分を不気味に感じ、また、走るようになる前は、やな奴だなーと思っていたが、人にマラソンを勧めるようになってしまった。

その後ハーフマラソンは数回完走したが、当初の目的であるフルマラソンは制限時間が5時間以内の大会が多く、なかなかふん切りがつかず迷っていたところ、大阪で8時間の大会があり、このときも申し込んでからフルの準備をしようと思い参加し、歩き歩きだったがなんとか完走できた。ハーフマラソン以上の達成感だった。また、ゴール前に金メダリストの高橋尚子が待っていて、誘われて手をつないでのゴールとなり、提携している記念写真業者のやらせだと十分に分かってはいたが、無邪気に喜んでしまった。

さて次なる目標は、わが地元洞爺湖マラソンである。今年度から責任者になったのを機に、職員の士気を高める目的もあって院内部活推進委員会を立ち上げ、いくつか部ができて活動中だが、もちろん私の意向でランニング部を設立し、部員3名でフルマラ

ソンに挑戦した。制限時間5時間なのでかなり走り込み、食事、体調管理万全で臨んだが、なんと当日朝、コースの一部が土砂崩れで通行止めとなり、半分の20kmレースとなってしまった。自然には逆らえない。来年のお楽しみとすることにした。医師のランナーも多く、3時間台で走る人もいるとのこと。そんなことはとても私には無理なので、タイムを気にせず地道に、完走を目的にこれからも続けていければと思います。仕事も同じように。



ドライブ

岩内古宇郡医師会
いわない眼科クリニック

寺山 亜希子

以前、「緑陰随想」でドライブについて書いたことがあります。ベーパードライバーだった私の運転技術も上昇といきたいところでしたが、冬には町内の運転のみ(吹雪いているときは乗らず)、雪が解けてからは、小樽、洞爺、黒松内などいろんな所へ行きますが、よく行く札幌にはまだ一度も行くことができていません。

札幌へ行くまでには、高速、3車線以上の道路、駐車という3大難関があります。もう1つ、たくさんある標識も私にとっては難関です。一度、千歳空港まで行くために小樽から高速を利用しましたが、札幌市内の高速では次々途中で乗ってくる車があり、車線変更しようとしても右側道路がいっぱいという事態に頭はパニック、心臓は飛び出そうなくらいドキドキしました。えっ、なんでーという声がたくさん聞こえてきそうです。そしてとても疲れて、やっぱり、時間がかかっても公共の交通機関がいいかとなってしまう、結局、車に乗る機会が減ってしまう悪循環です。

運転がうまくなるには？と聞くと、「運転は好きなの？とにかく運転することだよ」とよくいわれます。よく考えると、運転は好きではないが、ドライブは好き(プレッシャーのない田舎道)、とにかく運転してみるという根性はない私が、楽勝で札幌まで車で行くことができる日はくるでしょうか。





捨てられない!

旭川医科大学医師会

石子智士

今春、旭川医科大学基礎臨床研究棟の改修が終了し、ついに新しい医局に引っ越してきた。見違えるように綺麗になったが、研究室の関係で自分の部屋は愕然とするほど狭くなってしまった。そのため、限られたスペースに運べるものを厳選し、捨てられるものはできるだけ捨てるという作業を余儀なくされた。医局にもある雑誌や学会抄録集、会報などはできるだけ捨てた。しかし昔の発表スライドや資料などこれからも絶対に使わないと思う物でもなかなか捨てられない。だいたいプレハブにいた2年間一度も開かなかった段ボールを、この先開く可能性はゼロに近い。百年に一度起こるかどうかの災害のため備えが必要ですかと大臣に詰問され仕分けされた予算もあったが、災害が起こると日々の備えの大切さを痛感する。捨ててしまった後に万が一必要な事態が生じたら後悔するのでは、と恐れているわけである。

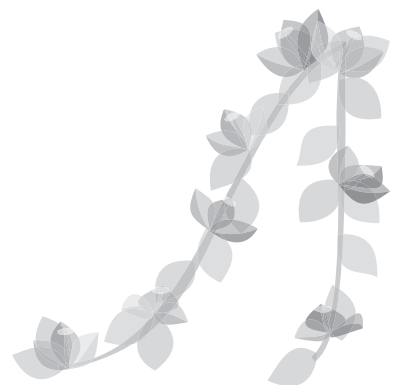
昨年から、断捨離という言葉を目にするようになった。「断」とは入ってくるいらぬものを断つ、つまり余計な物を買わない・もらわないということで、道で配っているティッシュさえもらってしまう自分は落第。「捨」は、不要なものは捨てるということで、後で役に立つかもと思うと捨てられない自分はこれも落第。「離」とは闇雲に欲しいという感情からは離れようということで、必要ないのにちょっとしたおまけが欲しくなったりする自分はこれもまた落第。すなわち、これまでの自分は、「断・捨・離」ではなく、むしろ、捨と離を断る「断・捨離」であった。だいたい、「もったいない」の精神で育てられた自分は、物を捨てることに抵抗がある。たとえダイエットしようと考えていても、食事が余れば自らすすんで食べてしまうほどである。しかしこれを実行すれば、すっきり片付けられて快適な生活を送れるそう。自分の生活態度とは全く相いれないため、断捨離に目覚めて「ダンシャリアン」になるには相当な意識改革が必要だ。

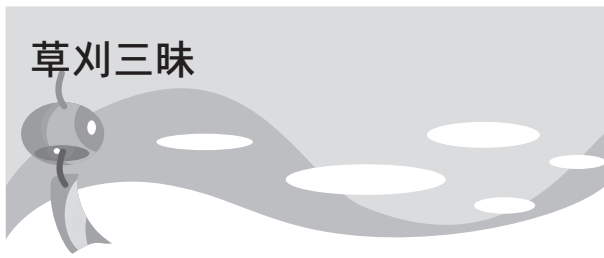
そういえば、子供のころから物を集めるのが好きだった。パッチ（めんこ）や切手、ミニカーなどを集めていた。しかし、集めてもきちんと整理したり飾ったりすることはせず、ときおり箱から出して一人悦に入っていた気がする。いつの間にか興味が離れ、振り返ってみるとすべて捨てられる運命になっ

ていた。捨てられても怒りを爆発させるわけでもなく、自分では捨てられないものの、自分の見えないところで処分されるのは大丈夫なのかもしれない。しかし結婚したてのころ、せっかく集めた希少コインをビニール袋に入れていたら、「もったいないから銀行に預けてきた」と家内に告げられ…その夜はひとりで泣いた。結婚20年過ぎた今でも「あなたがいると家が片付かない」とわが家のダンシャリアンに叱られ、家に置いた僕のものはいつの間にか消えている。

最近、ジェリーアンダーソンのSF特撮DVDコレクションが発売された。SF大好き少年だったころの思い出が蘇る。サンダーバードの秘密基地セットは家にあった！いろいろなメカニックの入ったコンテナを選んで救助に向かう2号がお気に入りだった。「われわれはミステロンだ」と懐中電灯で壁を照らし遊んだキャプテンスカーレット。ストレイカー司令官が声紋チェックして地下の秘密基地に部屋ごと降りて行く謎の円盤UFO。月面基地ムーンベースから発進するインターセプターに隊員が乗り込むシーンが格好よかった。そんな懐かしいDVDが解説付きで売り出されたのだ。買わない手はない。創刊号はすでに手に入れた。後は全54巻、今感じている興奮と郷愁がいつまで続くだろうか。そしてすべてが揃った暁には、これらの思い出を、わが家のダンシャリアンから守ることができるのだろうか。

「嗚呼、捨てられない！」





三笠市医師会
市立三笠総合病院

宮 下 均

三笠の市立病院に勤務して17年。最初の約10年は病院管理の医師住宅住まいで、住宅回りの草刈はすべて病院の職員の方がしてくれたので、自ら草刈をしたことは一度もなかった。

数年前に三笠市内に土地を買って自宅を建てた。200坪の角地で、勤務先まで徒歩数分。一坪約3万円という値段は、札幌市内に比べれば相当に安い。そしていささか広めに土地を買ってしまったことで生じた問題が草刈であった。自分の土地であるからして、生えてくる雑草は自分で処理することを余儀なくされる。この当たり前の事実、土地を買ってから気づくことになった。

角地の西側に塀を作らなかったため、わが家の庭と畑は、道行く人から丸見えである。田舎とはいえ自宅の横の道は市民の散歩コースにもなっていて、かなりの数の人が通る。草ぼうぼうでは体裁も悪く、私は渋々草刈を始めなければならなかった。

当初土地の西側の一角には刺のある灌木(ニセアカシヤ)がはびこり、なかば雑木林になりかけていた。その一角の灌木の除去が最初の仕事になった。この雑木の繁殖力たるやすさまじく、地下茎で驚くほど離れた場所の他の一本とつながっていたりする。ツルハシを用いて根から掘り起さないと駆逐できないであろうことは直感的に理解できた。ふた夏ほどの苦闘の結果、この一角にニセアカシヤが芽を出すことはなくなった。

ニセアカシヤの後に出現したのは、カヤヤタンポポが見苦しく入り乱れたいかにもぱっとしない草原で、草刈り機で刈り取るお決まりのパターンになった。しかしこれらの雑草は一度刈っても二週間も経てば膝まで、ひと月も放置すれば腰まで伸びることを知り、これらも鋤を使って根から絡め取ろうと決意したのが去年の秋だった。ちょうどそのころ、ご近所の方から芝桜をたくさん分けていただけることになり、雑草を抜いた後には芝桜を運んで植えた。

ひと冬越して雪の下から姿を見せた芝桜は、ペしゃんこに潰れて死に絶えているようにも見えた。しかし暖かくなるにつれて息を吹き返し、5月の終わりから6月の初めには白とピンクの美しい花を咲かせて目を楽しませてくれた。そして昨秋に根断ちした雑草の出足は明らかに鈍く、気を良くした私は、この春さらに芝桜をいただいてきて植え増した。

自宅の横の3×10メートルほどのエリアの中で、思惑通りに事が運びつつある小気味良さ。こうなってくると芝桜の合間から伸びてくる雑草の一本一本までが気になって、それらを摘み取ることが帰宅してからの日課になった。最初は苦行でしかなかった草刈が、気がつけば楽しみに変わっていた。

病院から自宅までの道筋にあるお宅の庭先にも目を向けることが多くなった。芝桜を植えている家が実に多く、また奇麗に手入れされた庭が多いことに改めて驚いた。そして雑草の駆除に関して、一本の雑草すら見当たらない驚くべき庭を発見した。そのお宅のご主人によると、定年後のやや持て余し気味の時間のほとんどを庭いじりに費やし、庭を隅々まで歩き回って雑草が芽を出すや削ぎ取ることを続けるうちに、適度に地面も踏み固まり、雑草自体が発芽しにくい地盤になったのだという。そのご主人に言わせれば、除草剤や雑草シートは邪道とのこと。草刈も奥が深い。

私が自宅でしていることはいまだガーデニングにはほど遠く、草刈の延長に過ぎない。しかし草刈の達成感だけでも人生はけっこう楽しめるものだと知ったことは、私にとって収穫だった。今年植え増した芝桜が来春どのくらい奇麗に咲いてくれるのか、それが今から楽しみだ。



我家に仔犬がやって来た



余市医師会
勝田内科皮膚科クリニック

勝田貴子

私は犬が苦手。当直続きの研修医時代、疲れがピークに達し、仮眠室で少しとうとうとしていたとき、仔犬に追いかけられ、顔を舐められる夢を見て、初めて金縛りにあった。幼いころは、調教しているつもりで、近所の外飼の犬たちに勝手に芸を仕込んで、給食の食べ残しのパンをあげたり、人並みに好奇心旺盛な子供だった。ところが、ある日、大型犬に追いかけられるという災難にあった。調教しきれていなかったのだ。以来、犬は苦手、現在は犬のみならず、毛深い動物全般が苦手。

ところが、その日は、気分もウキウキするような良い天気だった。「買い物にでも行こうか」と全員で車に乗り込んだ。札幌のショッピングモールを目指して、ちょっとしたドライブ気分だった。いつもの休日であれば、食事と買い物で満足のはずだった。ところが、その日は、付設のペットショップにも立ち寄ってしまった。そこでは仔犬たちが、小さな犬舎の中で、寝たり、吠えたり、おもちゃで遊んだり、そのかわいらしさを見せつけていた。不景気のせいか、以前人気があった大型犬は影を潜め、“携帯”のストラップになりそうなくらいに小さい仔犬をスタッフが手の平にのせながら、お客さんに熱心に説明していた。

そんな中、一番端っこの犬舎の中で、少し窮屈そうに、静かにひっそりと、ラブラドルの仔犬が寝ていた。一瞬目を開けたその姿に、長女は心を鷲掴みにされてしまった。すぐさま目ざとくキャッチしたスタッフ、「ちょっと抱いてみませんか」の一言。私以外の家族全員の号令のような「お願いしまーす」。その後は「かわいい、かわいい」のオンパレード。しかも、その仔犬は美犬だった、「誰かに似てる、誰かに、あっ滝クリだ。面長の顔に大きい目」そっくりだと思った。その後はとんとん拍子に話が進み、一通りの手続きを済ませ家路についた。

生活は一変した。ナナと名付けられた仔犬は家族の中心になった。夫も子供たちも感心するほどに良く面倒を見る。私は、ひたすら皆のヘルプ役、戸惑いを隠しきれない。母乳パワーで乗り切った三人の子育てに比べると、この仔犬のいきなりの登場は勝手が違う。いたずら盛りの一歳児が突然やって来て、ものすごいスピードで暴れん坊の三歳児に変身。じゅうたんを早々に取り除き、安いリノリウム製の

敷物にかえたのは、今思うと名案だった。ポロポロに食いちぎられた敷物を見て、本当、しみじみそう思った。

ワクチン接種も大方終わり、今度はお散歩デビューだ。大喜びで外に飛び出すかと思いきや、前足を踏ん張り、お尻を床にくっつけて、思い切り拒否。滝クリ顔は、たちまち、チャウチャウになってしまった。それでも、毎日少しずつ行動範囲を拡大。次第に散歩をせがむようになった。散歩から帰って来てからがまた大騒ぎ。犬はそう、スニーカーを履いていない。テラスに犬用の洗い場を作った。犬も人も慣れない作業で、足だけを洗うつもりが、両者ともびしょ濡れ、ドライヤーをかけて、床を拭き、自分の着替え、何だかんだ終えたころにはヘトヘト。泣きたい気分になっていたが、慣れるもので最近では流れ作業で少しずつスムーズにできるようになってきた。

ストレスの多い仔育てだが、驚いたことに幸せな瞬間が増えてきていることに気付いた。ソファに座っていると、お気に入りのおもちゃをくわえ、膝の上にとっかりと寝そべる。その背中をなでると、不思議に穏やかな気分になる。無防備なあおむけの寝姿を、夜、そっと見つめていると、子供たちが小さかったころを思い出す。寝顔に一日の疲れが一気に癒される。「ナナ」と名前を呼ぶと一目散に駆け寄って来る。この瞬間が増えるなら、いつか私も愛犬家になれるかもしれない。まだまだ、道半ば。我家の子、仔育ては、明日もまた、つづく。



私の菜園日記

岩見沢市医師会
石塚医院

石塚竜哉

平成11年、町立病院で勤務を始めたときに医師住宅の裏に使用していない畑地があり、自由に使うのもいいですよと言われ、以前からベランダでプランター栽培をしていたこともあり、意気揚々と家庭菜園に挑戦開始！しかし広い敷地になにから手をつければいいのか皆目見当がつかず本屋に直行し、「はじめての菜園」などという本を購入、本片手に試行錯誤、結局はほとんど自己流で適当に種を蒔き、苗を植え、あとは自然任せでしたが、なぜか1年目はどれも素晴らしい出来栄でした？自己満足ですが…採りたてのキュウリやキャベツ、トマトには感激！野菜などどれも変わりがないと思い込んでいた私にとって、驚くべき再発見でした。そうなりますと調子によって次の年からは、あれもこれもいろいろな野菜に挑戦したのですが、当然そんな安易なものではありません。結果は散々なものになり「農家を舐めるな！」と聞こえてきそうでした。

それでも、毎年雪解けが待ち遠しくなり、5月の連休ごろになると今年はどこに何をしようかとソワソワしだします。それで、つい早めに苗を植え枯らしてしまったり、種も早く蒔き過ぎ発芽しなかったことが何度もありました。

数々の失敗とわずかな学習を繰り返すうちに、なんとか一定の収穫を確保できるようになったのですが、腰痛を発症し農作業が苦痛を伴うものに、しかし仕事を休んでも畑仕事はコルセットしながらも続けました。

引っ越しを機に自宅横に菜園を作ったのですが、広さは前の畑の半分以下で、子供に喜ばれていたハロウィンカボチャやスイカなどはスペースの都合で諦めました。そこでたくさん作らずとも楽しめるものと思い、いろいろな珍しい品種に挑戦。白いナス、トマトピーマン、丸いキュウリ、黒いトマトなどなど、スーパーや八百屋でもほとんど見たことのない変わった面白い野菜がいろいろあります。家族や友人たちの驚く顔が見たくて、毎年新しいものに挑戦し楽しんでいきます。

また菜園をしていると、新たな発見や驚きがたくさんあります。夏休みで家族旅行から帰ってみるとキュウリが大変なことに、まるでヘチマのように巨大化していたのです。「こんなの見たことない！」と子供たちは大喜び、おそろおそろ食べてみると少し

水っばいけど十分食せました。ズッキーニもそのままにしておくともたでもなく大きくなります。ゴーヤは熟れ過ぎると爆発してしまいます。

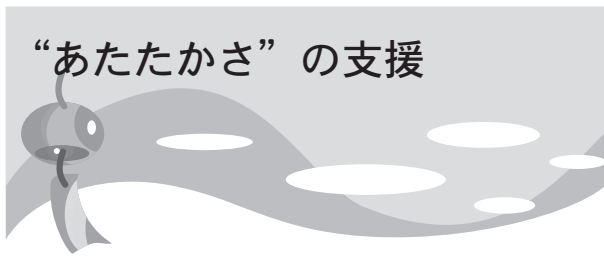
ある年などは華やかな菜園にしたいと思い立ち、ペパーミントの種を畑の周囲に、ラベンダーも一部に蒔いてみたのですが、2年もするとたちまち一面ハーブだらけに、結局すべて根から掘り起こし処分することに。ハーブは成長が早く深く根を張るので、しっかり計画して植えなければ大変なことになるってしまいます。

菜園の楽しみは、やはり収穫したものを食すときです。

バーベキューのときは畑のトウキビを皮のまま水に30分ほどつけ、そのまま焼くと皮が焦げたところちょうどいい蒸しぐあいになり大変おいしく食べられます。採りたての枝豆にビールは最高です！食材が足りなくなったら適当に食べたいものを畑からそのまま網の上に、子供たちに採らせると食べきれなくなってしまう。

毎年植えるものを計画して菜園を構成しているのですが、最近、連作障害が出現、格闘中です。土の改良や肥料の使い方、殺虫剤の使用など突き詰めればいろいろありますが、まず作ってみてください。プランター栽培でも十分楽しめます。自分の手で育て収穫した野菜を食べることで、身も心も元気になります。





空知医師会
砂川市立病院

湊 正 意

過去38年間、外科医として人の生死にかかわり続け、時にはごく些細なきっかけがそれを分けることについて痛いほど身に染みていたはずの自分が、今回の大震災ではまるで少年のように、生死を分ける境い目とは何だろう？そもそも境い目なんて存在するのだろうか？と自問している。もしかしたら境い目など想像上の産物で、人は皆、生死渾然と生き、かつ死んでいるのかもしれない。そして、家族と別れて生き残るという宿命を背負わされた現地の人たちは、そのことを瞬時に身体の深いところで理解したのかもしれない。起きてしまったことは、“人間”にとっては不条理でも、“自然”にとっては理に過ぎないということも含めて…。

このようなある種の諦観を通奏低音のように響かせながら、見えない相手を赦し、立ち上がろうとしている人々、彼らの心に届く支援とはどのようなものなのだろうか？とも自問してみる。もちろん、金銭的、物的、人的支援が一人一人の意に沿った形で提供されることを心から望むのだが、せめてできるだけ早期に実現させてほしいこの最低限の願いでさえわが国の現状ではおぼつかなく、まるで指揮系統の壊れたポンコツバスに乗せられているかのようなのである。これほどの国としての対応の遅滞、痒い所に手の届かない支援の実態はまさに人災としか言えないように思うし（6月下旬、震災発生後100日を過ぎた時点で）、ある意味冷酷である。

被災地では、当院のような自治体病院の中にも施設の壊滅的な被害だけではなく、多くの医師を含む職員の方々が亡くなられ行方不明になられたと聞く。また、日赤や日医に比べると見えにくいと言われつつも、全国の自治体病院からは、人的支援だけ見ても震災発生後4月末までに441施設から延べ3万5千人近くの職員が駆けつけたという。

当院からも、発生翌日のDMATの派遣（自衛隊機による道県の枠を超えた患者の広域搬送に携わる）と、その後、道を窓口としての4次にわたる医療支援を行ってきており（4次目の支援は6月下旬から7月にかけて）、火事場の馬鹿力ではないが、いざとなると、ここまで迅速に熱く行動ができるものなのだと、内側から見ていても感心させられる。1次隊には石巻市出身の後期研修医も含まれていたのだが、支援に向かう人たち（もちろん留守を預かる送

る側も含め）の心は温かく、純粋だった。帰院した職員の報告に突き動かされることも多いためか、その後も手を挙げる職員が引きも切らず後続隊の人選には困らなかったのだが、その報告から2、3引用してみよう。

避難所での診療を始めて3日目、簡易トイレの排水用給水作業（バケツリレー）を支援隊全員で輪の中に入って手伝ったところ、その日の夜の挨拶時にフロアから拍手が巻き起こったという。支援隊はようやく受け入れられたと感じたとのことだ。「心のケア」チームが無思慮に心にまつわるアンケートを行い、“対象”とされたと感じた被災者から「君たちは何をしたいんだ？」と強烈な反発を買ってしまったことがあったと聞かすが、まずは入り口の“あたたかさ”が重要なのだということを示唆してくれる。

また、「酒飲んで手首切ったら楽に死ねるかな」と、家を流され父とも疎遠な青年が避難所に入れないと感じ、深夜徘徊していた。低体温症一步手前だったらしいが、口だけの説得では施設内に入ることをかたくなに拒否。このときまず、温かい飲み物を飲んでもらい看護師が手を握り暖めたことでようやく軟化して施設に入った。ここで当院の病院給食から持たされてきた備蓄王のカレーとシジミの味噌汁を食べてもらい、最後に究極の？手わざ“足浴”を行ったところ心情を語り始めたという。彼は、このチームが帰道する日の朝、5時から外で待ち「何か手伝わせて下さい。恩返しがしたい…」と言ってくれたそうだ。

ひとの命をつなぎとめる支援・ケアとは、身体と心、双方に染みわたる“あたたかさ”に基づいている必要があるのだと思う。



震災歌集を読んで

小樽市医師会
おたるイアクリニック

鈴木敏夫

東日本大震災から100日を過ぎ、徐々に復興の兆しがあるものの、原発事故処理をはじめとして、まだ深い混迷が続いている。当初は、これほど日本に無駄に存在していたのかといら立つほど、いろいろな大学の原子力（原子炉）専門家という学者たちが連日、報道番組で解説していたが、的確に状況进行分析していた者はいなかった。漫画「美味しんぼ」の原作者である雁屋哲氏は東大物理学科の出身であるが、早期から多少過激な表現でメルtdownを警告していたため、3月16日にはインターネット上の攻撃によりブログ閉鎖となり、いまだに再開されていない。

このような状況の中、4月25日に中央公論新社から俳人の長谷川權氏による「震災歌集」が緊急出版されている。大震災の当日、東京のJR有楽町駅ホームで激しい揺れに遭遇した氏には、その夜から荒々しいリズムで短歌が次々に湧き上がってきたという。なぜ俳句ではなくて短歌だったのかは、現代を代表する俳人の氏にも理由はわからないとのことである。「やむにやまれぬ思い」が、大震災からの12日間を短歌による記憶と記録として発表された。

長谷川權氏は松尾芭蕉に精通していることでも知られ、著書「古池に蛙は飛びこんだか」ではこの有名な句が、実際古池に蛙が飛びこんだ音を聞いて作られた句ではないと300年来の誤解を指摘している。読売新聞朝刊の詩歌コラム「四季」や現在毎月初めの夕刊に連載中の「海の細道」をごろんになっている会員も多いと思う。

1976年4月からの一年間、私は、今は存在しない東京雑司が谷の男子学生用ワンルームマンションのようなところで浪人生活を送ったが、入居後しばらくして、非常に短い睡眠時間で生活し部屋には大量の書籍があり、なおかつ非常に優秀な東大生が館内に存在するということを噂で伝え聞いた。ほどなく実際にお会いすることができたのが長谷川權氏であった。偶然見せていただいた氏の大学での講義ノートは、後々まで東大の学生の間でコピーされたと聞いたことがあったが、ルーズリーフの片方だけに精緻に講義内容が書いてあり、白紙の部分に自分のまとめなどを書けるようにしていたような記憶がある。親身に世話をしていただいた九州男児の事務長を慕って今でも同窓会が開かれ、懐かしい顔に会

うことができることは浪人生活の最大の収穫である。

氏は、日本という国のあり方を変えてしまうほどの一大事の中、詩歌がそれと堂々と向かい合うべきことを説き、今回の大震災が日本人のDNAに組み込まれている五七五、五七五七七というリズムを目覚めさせたことを指摘している。

政府や東電および御用学者の体たらくには目を覆うばかりだが、宮沢賢治の愛した東北の人々の血がまだ日本人に流れていることが唯一の救いであろうか。

震災歌集から数首を紹介させていただく。

かかるときかかる首相をいただきてかかる目に遭ふ日本の不幸

日本に暗愚の宰相五人つづきその五人目が国を滅ぼす

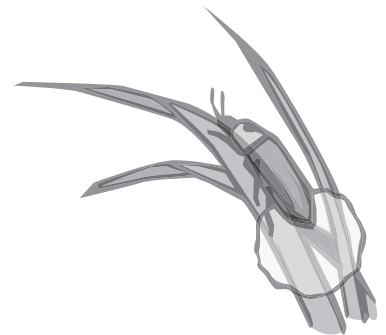
大津波襲ひしあとのどさくさに円買ひあさる餓鬼道のやから

石原の石くれのごとき心もて『津波は天罰』などといふらし

かりそめに死者二万人などといふなけれ親あり子ありはらからあるを

人々の嘆きみちみつるみちのくを心してゆけ桜前線

「震災歌集」の印税は被災された方々への義援金として寄付されるとのことである。ぜひお読み下さい。



開業のご挨拶＋ 子供の補助輪がとれるまで！？

空知南部医師会
栗山さいとう眼科

齋藤秀文

北海道医師会の諸先生、いつも大変お世話になっております。今年4月に夕張郡栗山町で、栗山さいとう眼科を開業させていただきました、齋藤秀文と申します。栗山赤十字病院眼科で5年間勤務医として働き、栗山町で長く眼科医として働くために開業を決意しました。栗山赤十字病院に来たときは、定年までお世話になるつもりでしたが、今の厳しい医療経済情勢のために、いろいろと思うところがありました。

5年前に栗山に来たときに、「視力が落ちてきて車の運転が最近つらくなってきたけど、まだまだ農家の仕事を続けるので車がないとやっていけない、手術してほしい」という80代の女性が受診してきました。視力は0.2しかありません。かなり強い白内障でした。手術をして視力が1.0に改善。大変喜んでいただきました。このこととはまた別に、僕が車を運転中に、しばしば、信号無視の車を見かけましたし、センターラインを越えてきて、ぶつけられそうになることも経験しました。そして、「ひょっとして、この地域で運転しているご老人はみんな、視力があまりよくないのではないか？」と思うようになりました。しばらくすると同じような患者様がどんどんやってくるようになりました。「もしもこの地域に眼科がなくなればこの患者様たちはどうなるんだろう」。そのような疑問と、自分の今後のことも考えると、開業という結論が頭に浮かびました。

まず、栗山日赤の院長、菱山豊平先生にご相談。こちらよく僕の開業を許してくださいました。さらには、僕が辞めた後の眼科の廃止を決めていただきました。そこから、医療コンサルタント、金融機関様との話し合い、土地、建物の話し合い、医療機器の機器納入業者の選定など忙しい毎日となりました。スタッフの募集、患者様への説明、診療情報提供書の記載も同時進行ですすみ、4歳と5歳の子供たちと過ごす時間はなかなかとれなくなっていきました。

3月は開業準備のために、栗山赤十字病院での勤務はお休みさせていただき、近隣の眼科の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。この場を借りてお詫びさせていただきます。

そしていよいよ4月1日開業いたしました。3月が休みだったこともあり、投薬をうけていた患者様

が4月になり、わっと来院されました。スタッフ一同、患者様への対応に追われ、悪戦苦闘してまいりました。

そして、ふと、あまり子供と遊ぶ時間がなかったなあと思いました。長男は6歳になり「周りの友達には自転車の補助輪がとれているけど、僕はまだなんだあ」と言います。休日、栗山に来てもらい、クリニックの駐車場で特訓が始まりました。初めは補助輪を普通につけて走らせ、続いて補助輪が地面から少し高い位置に来るようにずらしました。すると、補助輪が舗装に接地するときに、がらがらというのですが、がらがら、す～、がらがら、す～、がら、す～、す～す～す～という具合に少しずつ、補助輪が舗装に接地しなくなってきました。いよいよ補助輪を片方はずして、続いて、両方はずしました。両方の補助輪がとれて、まっすぐ走れたときには感動しました。久しぶりに子供と喜びを分かち合えた時間でした。

さて僕のクリニックも子供の自転車走行と同じような状況で、まずは補助輪がたくさんついた状態でこぎ始めております。長く栗山町で診療を継続していけるように頑張るつもりです。これからもご指導いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

ノーベル賞と セレンディピティ

千歳医師会
千歳佐藤整形外科医院

佐藤 貢

ノーベル賞はアルフレッド・ノーベルの遺言と遺産に基づいて1901年から始まった世界的な賞である。特に自然科学部門の受賞は、世界中の科学者達にとって至上の名誉である。

昨年10月、北大名誉教授の鈴木章さんが根岸英一さんとともに受賞したノーベル化学賞に日本中歓喜の輪が広がった。鈴木さんは、むかわ町で出生して苦小牧東高校を経て(私の大先輩)、北大卒業後も研究を続けた純粋な“道産子”学者なので、道民の喜びと関心が一層高まった。

以前にNHKテレビで見たが、ノーベル賞受賞者達が「Serendipity」という言葉で心境を表現していた。日本語では「邂逅」または「たまたま偶然に発見する優れた才能」の意味であろう。

1758年、ウォルポールが「Serendip(セイロンのこと)の三人の王子」という意味から作った単語で、三

人の王子が偶然と英知の組み合わせで、求めている大発見を次々とする意味であるらしい。

科学上での大発見に至る「偶然」や「Serendipity」に関しての逸話はいろいろと知られている。特に医学に関しての事柄については、中外医学社の「医学を変えた発見の物語」(JULIUS COMROE、諏訪邦夫訳)が大変参考になる。1895年レントゲン博士がX線を発見、1929年フレミングがペニシリウム現象を発見などがSerendipityのケースかもしれない。

2002年10月、ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんは、ユニークな例かもしれない。田中さんはレーザー光線を当ててたんぱく質を分析する技術の開発に取り組んでいた。複雑な構造を持つたんぱく質は、熱にもろくレーザー光線を当てるとバラバラに壊れてしまうので、それを予防する補助剤(マトリックス)の研究である。

さまざまな補助剤を試みたが失敗の連続であった。しかし田中さんは諦めなかった。ある日、研究中に容器を間違えてコバルトの微粉末にアセトンを使うところを誤ってグリセリンを使ってしまった。間違えて混ぜたと知りつつ“もったいない”と思ってそのまま実験をすすめたところ、世界の大発見になった。

ノーベルがニトログリセリンを用いてダイナマイトを発見して大金を手にした。田中さんは同じグリセリンを用いてノーベル賞を受賞した。まさに偶然の重合である。

鈴木さんは宮浦教授とクロスカップリング反応の研究でノーベル賞を受賞した。

研究が成功した要因としては、

- 1) 学生時代textbook of organic chemistryという名著に出会って化学の道へ進んだ(33回読んだそうです)。
- 2) 1950~60年代、石炭から石油へのエネルギー転換によって合成化学の研究が盛んになった。
- 3) 根岸教授をはじめ、クロスカップリング反応の研究に努力していた日本人が多かった。
- 4) 実験には有機ホウ素化合物を用いて研究が続けたが、用いた窒素ガスに不純物が混じっていて、



写真1

それが触媒の役割をして実験が成功した。セレンディピティ「偶然の女神」が微笑んだのかも…。
5) 特許を取得しなかったため、世界中の化学者に応用された。それ以来、液晶材料や医薬品の製造に用いられ、社会的にも大きな貢献をした。

以上、門外漢の私の勝手な結論です。

むかわ町四季の館に、「2010年ノーベル化学賞鈴木章記念ギャラリー」が開設されました(写真1)。

学童から学生時代の思い出の写真とともに、鈴木カップリング反応の掌握が分かりやすく展示されています。パネルの一枚は「幸運との出会い」(写真2)で、



写真2

1978年、鈴木先生は「鈴木・宮浦クロスカップリング」実験に成功。実験に用いた「有機ホウ素化合物」の欠点を長所として逆転の発想で研究を続けた成果でした。

また「研究者なら幸運な発見〔セレンディピティ〕に出会うチャンスはある。しかし、それを活かせるかは、自然を直視する謙虚な心、小さな光をも見逃さない注意力、旺盛な研究意欲にかかっている」と記述されている。

北海道から第2、第3のノーベル賞受賞者が生まれてくることを期待している。Serendipityとともに…。



東日本大震災に想うこと

北部檜山医師会

せたな町立国民健康保険病院

徳永雄幸

今年3月11日に突如起こった東日本大震災により、現在日本は過去に類のない困難な状況に陥っているかに思える。確かに太平洋戦争後の極度の困難な時期を見事に復興した経験のあるわが国にとって、この難局もきっと乗り越えることができるのであろう。しかし終戦後の焼け野原の時代とは異なり、物質的には飽和状態にある今の時代に、以前のような逞しい精神的・社会的反発力が残されているのだろうか？一億総高齢化に向かって突き進んでいくわが国にとっては、大変過重な課題を突きつけられたのである。

これまで日本は物質的豊かさ・高効率の社会環境を目指して発展してきたのではあるが、その副作用としての大量のエネルギー依存・施設およびインフラの都市部への一極集中・地方の切り捨て体質がまん延してしまった。東京電力が招いた人的災害ともいえる不幸な状況も言うなれば、都市のおごりであり、地方を蔑ろにした政策の帰結と言わざるを得ない。この悲惨な状況を予測することは容易ではないにせよ、発案当時の為政者・また直接関与する企業体の責任は真に重大であり、いかなる弁明もその罪を免れない。過去に遡って責任を追及することは、即解決につながるものではないにせよ必要なことではないだろうか？この国ではあまりにも責任の所在が曖昧であり、責任をとる文化が死したように最近では思えるのである。今後の復興の青写真・工程表もまだ全く見えず、被災者達の心痛も想像するに余りある。

医療に関しても、近年の医療崩壊に加え、今回の事態に対応する現実的な対策はいまだ見えない。医師数・他の医療従事者の減少はあまりにも深刻で、国全体で考えなければ対応は不可能であり、ここにも都市部への一極集中が関与しているように思われる。確かに地域医療は崩壊しており、すべての需要を充足させる人的資源は乏しく、逆にこの事態に関しては人的・物的集約なしでは解決は得られない。どこの地域でも、均等・良質な医療の提供が受けられるということは、もはや幻想とも思えるのである。都市部と郡部・僻地が同等の医師配置基準や看護師の配置基準を求められたり、医療安全のためのさまざまな対策を、やはり大都市の高次医療機能を持つ病院と同様なレベルで（より脆弱な経済的基盤の）

地域病院が求められたり、すべて画一的になされることに、地域の不幸があるのである。

この震災を機に、これからの地域の在り方、これからの医療の在り方、国作りのビジョンを、為政者・官僚にのみ依存するのではなく、われわれもしっかりと考え、議論していく必要があるのである。とりわけ高齢化に向かうわが国にとって、終末期に対する考え方の議論を国民的にすべき良い機会であり、リビングウィルの導入の国民的議論も、併せて真剣になされねばならない時期にきていると考える。政治の愚昧さに嘆くばかりでは、対応の遅れがより致命的になる恐れがあり、われわれ医療者も常に熟考し、声を上げ、行動する時期に来ているのである。今こそ、平成の維新が必要なのである。

こだまでしょうか？

北広島医師会
北広島病院

高坂研一

「こだまでしょうか？」「いいえ誰でも」。

今や、知らぬ者のない、日本で最も有名になった詩の、最後の一節である。

あれだけ同じCMが短期間に集中して流れると、どんなに好きなフレーズでも飽きてしまい、思わずパロッてみようかななどと、不謹慎な気持ちも湧いてしまうものだが、初めてこの詩を聞いたとき、何とも言えない一種の切なさのような、不思議な感覚にとらわれた。

元来、詩のような、感性で詠まれ感性で味わうものは、なにやかやとうんちくをたればたれるほど、その醍醐味は台無しにされるものなのだろうけれど、あえてこの詩の意味を考えてみる。

「遊ぼう」と言えば「遊ぼう」と応え、「バカ」と言えば「バカ」と言う。でも、ちょっと寂しくなって、「ごめんね」と言えば、「ごめんね」と、相手は言うのだから、相手が言っているように聞こえる言葉は、実は、自分が相手に言わせている言葉なのである。

確かに、悪口を言われれば、言い返したくなるものだし、褒められれば、あの人はいい人だ、などと調子に乗って口を滑らせたりもする。もし、あなたのみわりの、親切でいい人ばかりなら、それはあなたが、まわりに親切でいい人だからなのであり、まわりが悪意に満ちた意地の悪い人達ばかりなら、それは、あなた自身があなたのまわりの人々にとって、

まさにそのような存在だから…。なるほど。耳の痛い話ではある。

いわば、あなたの目の前にいるその相手は、あなた自身を正確に映し出す鏡のようなもの…。あなたが心を開けば、相手も心を開き、閉ざしてしまえば、金輪際、相手が心を開くことはない。

確かに。それは、一理も二理もあり、十分に理解はできる。しかし…。この心に残るしこりのような違和感は何だろう？「遊ぼうっていうと」に始まるこの詩の響きが、なぜか切なく心に迫るのは、どうしてなのだろうか？

多くの場合、自分に向けられた他人の言葉や行動が、自分のアクションに対するリアクションであることは間違いない。悪意に対して、善意が帰ってこないことも、ほぼ確実である。

しかし、それでは、善意に対しては善意が、好意に対しては好意が、誠意に対しては誠意が、決まって相手から返って来るのかといえば、当然のことながら、そんなことは全然ないのである。

にもかかわらず、この詩が、ある種の真実性をもち、それでいてどこか切なく心に響くのは、ひとえに冒頭の一節によるのだろう。「遊ぼう」の一言が、心の奥底にしまい込んで、ずっと忘れていた遠い昔、無垢で幼かったころの消えかけた記憶の重い扉を開く呪文のように、瞬く間にわれわれをセピア色の世界に誘うのである。

「遊ば！」「うん、遊ば！」。「ごめんね」「うん、ごめんね！」と、ごく自然に言えたところが確かにあった。

いやいや、「俺は生まれてこのかた、一度だって素直にあやまったことなんか無いぜ」などとおっしゃる強面の貴兄も、それは、都合よく記憶からこぼれ落ちていただけのこと。恥ずかしいほど、純真で、無垢な時代が、必ず誰にでもあったはずである。

その、いわば原体験とも言うべき稀少な時期は、成長と言う名のもと、幾重にも重なるその後のさまざまな経験や感情に覆い尽くされ、やがて多くは、その存在すら忘れてしまう。

多分それは、とても合理的なことなのだろう。相手の気持ちを鏡のように映し取り、共鳴するようなむきだしの心は、無垢な世界を通り過ぎれば、喜びことより傷つくことの方が、おそらく、ずっと多いのだから。

降って湧いたような東日本大震災。意味もなく多くの人の命が奪われた。そのことに恐怖を覚えた人も、茫然とした人も、怒りを感じた人も、ただただ涙があふれ出た人も、あるいは逆に、毎年世界中で死んでゆく6,000万人ものおびただしい亡骸のごく一部ではないか？などとクールに開き直った人も、それぞれの心に、それぞれの波紋が立ったことに違いはない。

その後の、かつてないスケールで広がる、義援金やボランティアの輪を見れば、呆然と立ちすくみ、

あるいはしゃがみこんですすり泣いている人に、ごく自然に救いの手をさしのべるといふ素直な心を、この震災は、多くの人々に思い出させてくれたのかもしれない。

何の前触れもなく、突如として大量の命が失われ、家族も、仕事も、生活の場も、すべてを失って途方にくれる人々を、たとえテレビの画面であっても、繰り返し目の当たりにすれば、誰の心も揺るがす衝撃がある。

しかし一方では、前触れがあり、ある期間を経て静かに、そして間断なく消えて行く多くの命に、特別な衝撃を受けることは、まずない。これもまた、とりたてて言うこともない、当たり前の、しかし苦しい現実である。それでは、この二つの群の命に優劣や上下が存在するかと言えば、当然のことながら、そんなことはまったくないのである。

私は、被災地に行っていない。なぜ行かないのか？と聞かれ、返事に窮したことがある。即座に、迷うことなく現地に乗り込んだたくさんの方のボランティアの人たちに、尊敬の念も覚えるし、一種の後ろめたさのようなものまで感じてしまうが、それでも、今も今後も、被災地に行く予定はない。

「頭が痛い」「力が入らない」「めまいがする」「しびれる」「……」言葉が出ない、等々きりがないほど多くの訴えを、気の遠くなるほどの回数、聞いてきた。多くは、命に別条はなかったけれど、しかしまた、決して少なくはない数を看取ってもきた。

それでは、その一つ一つに、今、おそらく多くの人が被災者や遺族に感じている、優しさだとか、憐れみだとか、あるいは、自分がやらねば誰がやる！的責任感だとか、そういったもろもろと同等の気持ちを持って、接してきたかと問われれば、恥ずかしながら、胸をはってそうしてきましたとはいにくい。むしろ、そのような気持ちを持ちづらい山ほどの言い訳が先にあり、それが壁となって、本来持つべき気持ちが、いつのまにか、まったく見えなくなってしまったのかもしれない。

実を言えば、この稿そのものが、自分の心の奥底に巣くう、どこかギルトな気持ちの、大いなる言い訳なのかもしれないけれど、この際、それでもいいじゃないかと開き直すことにした。実際、一度にみんなが被災地を訪れることには、意味がないのだから。

こんなことを言うのは、実に面映ゆいだけけれど、目の前の病んでいる人達の言葉を、言語中枢とそれからもう一つ、これまでであえて使わなかったところで、聞いてみようかな。もしかすると、これまで聞くことのできなかつた言葉の響きを、聞き取ることができるかもしれないから。

大震災がもたらした心の波紋。人から人へ、さらにこだまのように広がる大きな波紋の一部に、そうすることで自分もなれるのかもしれないし。